

日本放射線影響学会第 63 回大会 シンポジウム・ワークショップ公募要領

1) 日本放射線影響学会第 63 回大会のシンポジウム (SY) とワークショップ (WS) の企画を公募いたします。SY と WS の定義に準拠した内容にてご提案下さいますよう、何卒宜しくお願いいたします。

SY の定義：学会として旬な大きな話題について、他分野の人も含めて既に認められている業績を持つトップの研究者や有識者数名がその業績をさらに発展させたものを講演する。従って、これまでの業績を集約した完成度の高い演題をとりあげるセッションである。通常、個別に質疑・討論を行うが、総合討論は行わない。時間は 120 分。1 セッションあたりの非会員演者数は制限しない。

WS の定義：旬なある程度の大きさの話題について、完成した研究成果というより未完成の進行中で最新の研究結果を報告しあうセッションである。斬新な考えや新しい方向性などを示すような発表が望ましい。聴衆との討論の中で助言や今後の方向性が指摘されることが望ましく、そのため長めのディスカッションをして論議を深める。総合討論はオーガナイザーの判断で有無を検討する。時間は 90 分。1 セッションあたりの非会員演者数は制限しない。

2) 大会本部が企画中の指定 SY・WS のタイトルとオーガナイザーは次の 5 件です (2020 年 1 月 30 日時点)。

- ① 「福島原発事故による環境への影響 (仮題)」 (WS)
オーガナイザー：石川徹夫 (福島県立医大)
- ② 「放射線と造血器障害及びその治療 (仮題)」 (SY)
オーガナイザー：坂井晃 (福島県立医大)
- ③ 「危機時のクライシスコミュニケーション；誰が、いつ、どこで、どのように行うのか (放射線災害を中心に) (仮題)」 (WS)
オーガナイザー：長谷川有史 (福島県立医大)
- ④ 「福島県県民健康調査「甲状腺検査」の現状とチェルノブイリとの関連性 (仮題)」 (SY)
オーガナイザー：志村浩己 (福島県立医大)
- ⑤ 「がん免疫と放射線・基礎と臨床 (仮題)」 (SY)
オーガナイザー：鈴木義行 (福島県立医大)

3) 応募は、所定の企画提案書に必要事項をご記入の上、運営事務局<63jrns@jtb.com>まで e-mail でお送り下さい。整理のため、件名を「SY・WS 応募 (申込者名)」としてください。受付後に事務局より確認のメールを返信します。1 週間以内に受付メールが届かない場合には事務局までご連絡ください。

4) 締め切りは、2020 年 3 月 2 日 (月) 正午とさせていただきます。

5) 応募多数の場合、プログラム委員会にて審査の上、採択の可否を決定します。シンポジウムとワークショップの区分変更をお願いする可能性、および内容の類似する提案は調整をお願いする可能性があります。**会員の発表機会を公平にするため、全セッションを通じて 1 演者が登壇できる回数を原則 1 回までとします (やむを得ず複数回登壇の可能性がある場合、事前に大会事務局にご相談下さい)**。また、シンポジウム・ワークショップ演者の依頼は、応募者より行って頂きますが、著名な研究者を招聘したいなど、大会事務局からの依頼をご希望の場合、候補者リストを用意し、事前にご相談下さい (いずれも<63jrns@jtb.com>へ)。

6) SY と WS の座長はともに 2 人までで、日本放射線影響学会会員とします。座長をお勤め頂ける公募 SY と公募 WS セッション数は、お一人 1 つまでとします。非会員演者数に制限はありません。非会員演者は懇親会費を免除とします (または参加費を免除とします)。大会事務局から演者への謝金・旅費補助・宿泊費補助はありません。

7) 学会の国際化推進、女性研究者・若手研究者の活躍支援のため、「セッション全体の使用言語を英語とする企画、演者に海外研究者・女性・若手 (40 歳未満) を多く含む企画」を優先して採択します。

8) 発表スライドと抄録は、原則、英語とする予定です (講演者に一般の方を含むセッション、政策・教育・キャリアなどを議論するセッションなどは例外とします)。

以上